

タイトル (活動概要)	114 自分にもできる 応急手当を知ろう	アプローチ (関連する力)		「自分づくり」① 「集団づくり」⑱	
タイミング (実施時期)	宿泊体験学習の前 4年「けがの予防」	活動 場所	教室	所要 時間	45分
対象学年	幼・小低・小中・ 小高 中1・中2・中3・高	活動 規模	学級	活動 場面	体育(保健)
活動の ねらい	<p><背景>群れ合い体験の不足により、協力して問題解決する場面が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して課題を解決する体験を通して、友達との関係を深める ・自分にもできる応急手当を知り、安全に気を付けて、思い出に残る宿泊体験学習にしようとする 				
準備	ワークシート、掲示用資料、ふり返しシート、グループ別カード				
学 習・活 動		支援の観点・留意点等		資料等	
1 導入 ・様々な場面のけがについて考え、どのようなけがが起こりそうか、考え、話し合う		・体験学習の施設の絵地図や活動場面等を提示し、イメージをもてるようにする		施設の絵地図 けがの種類絵	
けがの手当てについてグループで話し合い、自分でできる手あてのやり方を知ろう					
2 主活動 ・自分のグループに配られたけがに合う手あてを、話し合っ選ぶ ・なぜそれを選んだのか、理由も考える ・各グループで話し合った手あてとその理由を発表する ・けがの種類と正しい手あての方法・手順について説明を聞く		・各グループに、けがの名前が書かれた紙1枚と様々なけがの手あての手順が書かれている紙5枚を配る ・けがの種類により手あての仕方や手順が異なることを理解することができるようにする		ワークシート グループ別カード	
3 ふり返り ・今日の活動の中で感じたこと、学んだことをどのようにいかして、宿泊体験学習に向かうか考える		・この学習が宿泊体験や実生活で活かせるように話をまとめる		ふり返しシート	
配慮事項	・「けがの予防」の学習としても扱える。その場合は、学校生活や家庭の中での場面を想起させ、意欲づけをさせるとよい				

参考;久保昌子他「健康教育イラストカット CD-ROM」「健康教育イラスト集」(東山書房、2007年)

自分にもできる応急手当を知ろう

4年 組 名前

☆ それぞれのけがに合った応急手当を線でむすぼう。

つき指・ねんざ・
打ぼく



- ①きず口をあらう
 - ②きず口をハンカチなどでおさえる
 - ③きず口を心ぞうよりも高くする
- 注意) 人の血はさわらない

鼻血



- ①動かさない
 - ②冷やす
 - ③けがの部分を心ぞうよりも高くする
- 注意) 引っぱったり、もんだりしない

きりきず



- ①きず口をあらう
 - ②きず口を消毒する
 - ③ばんそうこうをはる
- 注意) 人の血はさわらない

すりきず



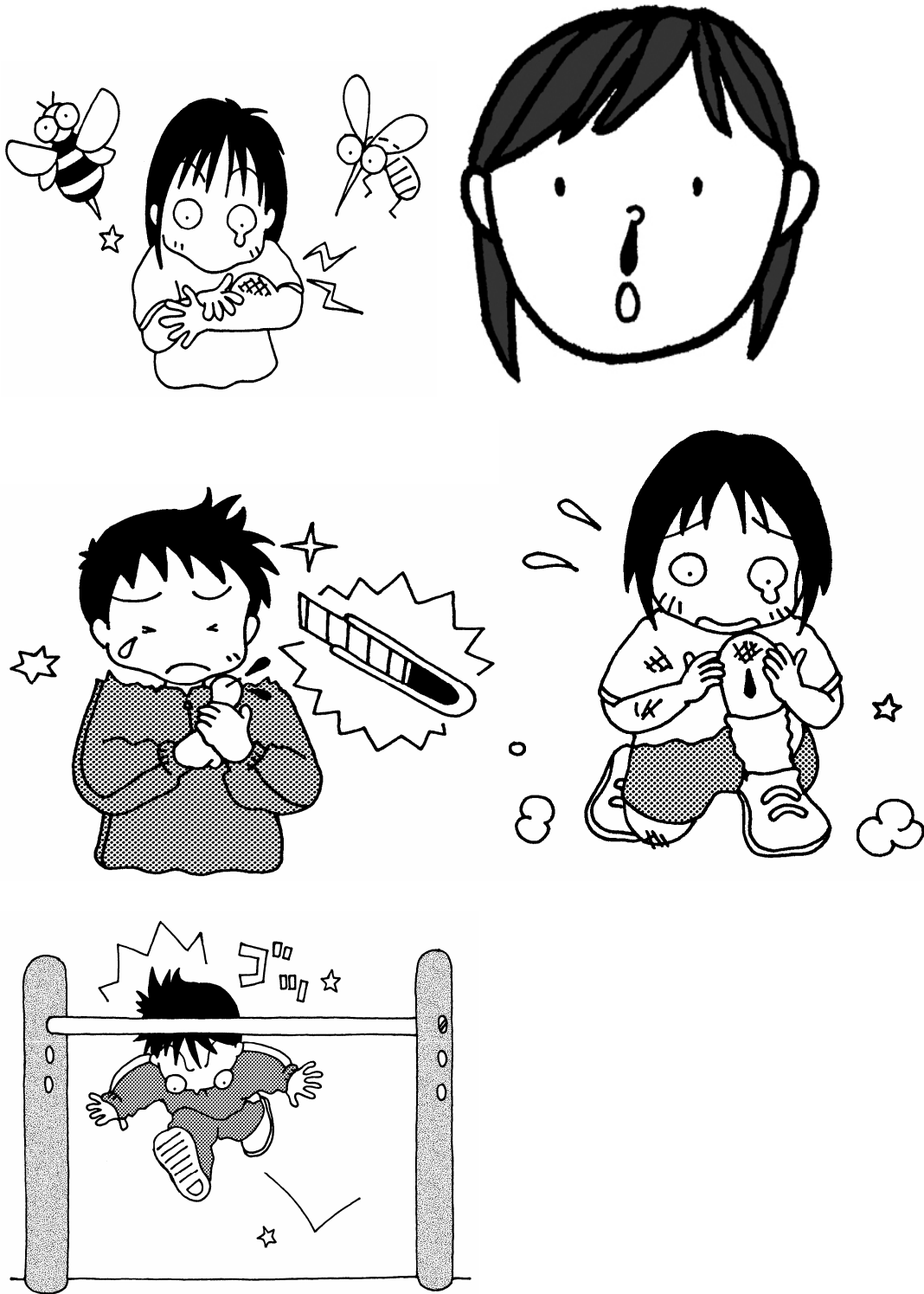
- ①きず口をあらう
 - ②きず口に薬をぬる・消毒をする
 - ③冷やす
- 注意) なるべくさわらない

虫さされ



- ①イスなどにすわる
 - ②下を向いてつまむ
 - ③冷やす
- 注意) 上を向いてはダメ!

揭示資料



「自分にもできる応急手当を知ろう」ふり返りシート

年 組 名前 ()

- 1 今日の活動は、楽しかったですか。(番号に○をつける)

4	3	2	1

できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

- 2 今日の活動は、男女関係なく協力してできましたか。

4	3	2	1

できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

- 3 今日の活動で、けがの応急手当について理解することができましたか。

4	3	2	1

できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

- 4 宿泊体験学習でけがをしたら応急手当ができる自信ができましたか。

4	3	2	1

できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	しっかりできた

- 5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。
